



## ロータリーの友便り

ロータリーの友  
地区代表委員

### 庄野 晋吉

(大阪RC)

(1)ロータリーの友・2月号推奨記事 ※推奨記事順  
今月号を読みまして、その特徴に気がつきました。横書き部分には「人との絆、繋がりを大事にして、奉仕を行い、自分の成長の糧にする」という考え方が多く出ています。

#### 【3ページ】

まず、今月のRI会長メッセージです。

会長は人との出会いの時には、常にいつもと違った視点や目的を持つことに気を付けておられ、人とつながれば、其処には自分が学ぶことがあり、伝えることがあり、教えることもある。そして自分がこれまでの自分より大きな何かの一部であることに気づかされる、と言っておられます。

出掛けて人と会い、話し、人との絆を築き、友情を感じ、生涯の思い出を創ることができるのだから、旅をしようと訴えておられます。

具体的には、韓国で開催される「第107回国際ロータリー年次大会」へのお誘いですが、小職には遠くへ旅をしようと仰っているだけではなく、いつものクラブでの例会でも、視点を変えて人とお話しすれば、其処には上記のような発見があると、言っておられるように読めました。

#### 【14~15ページ】

ロータリー平和センターから、辰野克彦氏の平和に関する執筆です。

2010年モントリオール国際大会での、ロータリー平和フェローのマリアス・アントニウさんによる、自分の出身地・キプロスに関連する報告です。

歴史を振り返ってみますと、「キプロス」という国は十字軍やフランス、そしてオスマントルコ、さらには大英帝国などから次々と統治された関係もあって、

1960年に独立を果たしますが、新憲法は機能せず、74年には北側にはトルコ系住民が、南側はギリシャ系住民と、分断されてきっちりとライン分けされています。2003年まで分断ラインが指定されていたこともあって、ギリシャ系とトルコ系は違った歩みを余儀なくされます。

1982年ギリシャ系生まれのアントニウさんは、トルコ系住民を「敵」と教育されて育ったので、なかなか融和する気持ちは生まれなかったようです。

2003年以降ラインが外され、対話が始まったようですが、現在でも両者はなかなか予断を許さない関係だそうです。その様な中でアントニウさんは過去を学び、受け入れ、相手の苦悩を思いやる事が出来る教育システムを創るべく奔走していると云う報告です。

そうです、国レベルの反目の主たる原因は、間違いなく教育にあると小職も思っております。勿論宗教などの影響もありますが、国民どうしのいがみ合いは、IS問題や北朝鮮問題、さらには日中、日韓の反目など教育が原因になっております。長い時間が必要ですが、誰かが取り組まなければならないテーマであることは間違いありません。

ロータリーでも何らかの活動を少しずつ取り組みたいものです。

#### 【24~27ページ】

第44回ロータリー研究会リポートです。

ここでも「人とのつながり」について「自分が理解されるためには、自分と違う人を理解することから始めなければならない」と主張されます。会長はマザーテレサを例に挙げて、自分の能力を他の人の為に使うこと、汗をかくこと、自分たちの献身を他の人の為にささげることの大切さを説き、他の人にとって何が



大切なことの根底にある、と話しておられます。

次に、青少年交換学生としてアメリカに留学した経験を持つ真鍋要一氏の話です。彼は交換学生として、マサチューセッツ州マルボロという小さな田舎町に派遣されますが、そこで驚くような体験をし、成長していきます。

彼は主張します、成長する過程でさまざまな経験を積んでいくと、初対面の人の本質を事前に仕入れた情報や、第一印象で判断してしまい、其処に偏見が生まれてしまうのですが、偏見とは相手のことを理解しようしない自分の姿勢が生むものだ、と気が付いた、と。

彼はそれに気づき、そのことを大事にしながら次の世代に伝え育てていると話しています。

#### 【65～68ページ】

「わがまち・・・そしてロータリー」の記事です。

今月は私たちの地区・東大阪市です。この記事は東大阪西ロータリークラブに御担当戴きましたが、きっかけはIM4組 梅澤ガバナー補佐に御相談して、お世話になりました、実際の対応は松尾会長や氏野幹事などの、多くのクラブ会員にサポートして頂いて完成したものです。

さて「ビョーラ」「ラシ」「ビジョー」「ナッセン」「シンセン」などなど、皆様にお分かり頂ける言葉でしょうか？ 多分私ども高齢者は判るのですが、全て工業用部品の一般名詞なのです。現在も東大阪で造られて、新幹線や自動車、そして航空機、さらには人工衛星などの重要な部品として使われています。

そして、東大阪と言えばそれは花園ラグビー場でし

よう。毎年高校選手権が開かれておりますし、2019年のワールドカップの会場なのです。五郎丸選手も佐賀工業高校の選手としてここで活躍しました。

そして、マスコットキャラクター「トライくん」は御存知の方も多いでしょうが、東大阪が「カレーパンのまち」であることは御存知でしたでしょうか？ いろいろな話題がちりばめられている記事ですから、是非御一読願いたいと思っています。

#### (3)その他注目記事

##### 【34～35ページ】

「モンゴルからやって来た弟」

米山奨学生のホイガ君を受け入れた徳島・脇町RCの北側一郎氏の苦勞と目覚めが描かれています。ホイガ君は、なんと徳島大学で博士号を取得します。人と出会い、つながるときの機微が分かる面白い記事です。

##### 【59ページ】

「真田一族と武田信玄公」

現在放送中のNHK大河ドラマ「真田丸」に関わる興味深い話です。

##### 【73～69ページ】

「努力で夢をかなえる」

第2510地区・IM基調講演要旨です。日本を代表しているスキージャンパーの「葛西紀明氏」による講演です。第一人者になるまでの御苦勞と現在の並々ならぬ決意が伝わってくる話で、その厳しさが分かります。